

登録コード	J5040200	開講年度	2026			
授業科目	マクロ経済学				担当教員	青木 周平
英文授業名	Intermediate Macroeconomics				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限	対象学年
講義室	経法第1講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目	(20・23カリ対象科目) 経：2年/法：3年(23カリは法：2年)
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	経法20加					
	経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身に付け、それを発揮できる力を身につける。			経済学が積み上げてきた知識として、マクロ経済学(の中で特に長期の経済成長論)に基づく基礎・中級レベルの論理的思考法及び統計的分析手法を身に付け、マクロ経済を分析するスキルを習得する。		
	経法23加(2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済					
	専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価, 実験経済学による社会制度の機能の検証, 医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘, 法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証, などのスキルを習得し, 経済の実情に即した政策提言, あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。			専門知識を応用・実践する力として、マクロ経済学(の中で特に長期の経済成長論)によりマクロ経済を分析するスキルを習得する。		
	経法23加(2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済, 経法20加・応用経済					
	【2020年度以降カリ対象】専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、金融、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。			専門領域での基礎知識として、マクロ経済学(の中で特に長期の経済成長論)に基づく基礎・中級レベルの論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。		
	経法23加(2026改)・総合法律, 経法23加・総合法律					
	環境問題や、企業や行政の組織内において、日々生起する諸問題について、理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち、総合的に解決していくことのできる能力を身につける。			経済学分野の思考方法として、マクロ経済学(の中で特に長期の経済成長論)に基づく基礎・中級レベルの論理的思考法及び統計的分析手法を身につけ、マクロ経済を分析するスキルを習得する。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	最初にカルドアのファクトと呼ばれる経済成長に関する基本的なファクトを確認し、これらのファクトと整合的で最もシンプルな理論であるソロー・モデルを学習する。モデルの結果と現実の様々なファクトを比較し、モデルの妥当性を検討する。その中で経済成長の要因などマクロ経済の長期的な動きを理解する。さらに、経済成長にともなって起こる長期のマクロ経済現象を理論的に理解する。					
(5)授業計画	第1回 経済成長に関するカルドアの定型化された事実 第2回 単純なソロー・モデル 第3回 ソロー・モデルの基礎 第4回 技術進歩のあるソロー・モデル 第5回 標準的な成長会計 第6回 もう1つの成長会計 第7回 農業部門と経済成長―脱農業化 第8回 サービス部門と経済成長―定型化された事実とバラッサ・サミュエルソン・モデル 第9回 サービス部門と経済成長―実質為替レートへの効果 第10回 サービス部門と経済成長―ボーモルのコスト病 第11回 投資固有の技術進歩―現実の現象 第12回 投資固有の技術進歩―二部門モデルの設定 第13回 投資固有の技術進歩―二部門モデルの動学分析 第14回 投資固有の技術進歩―二部門モデルの検証 第15回 本講義のまとめと授業アンケートの実施 期末試験					
(6)成績評価の方法	確認テスト(40%) + 期末試験(60%)によって行う。 確認テストは、学期中に基本的に毎週eALPS上で行う予定である。					
(7)成績評価の基準	授業で説明した内容と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、授業で説明した内容を多少修正した問題が解ければ「やや上にある」、授業で説明した内容を大幅に拡張した問題が解ければ「かなり上にある」、授業では十分に説明していないがより上級の内容の問題が解ければ「卓越している」。					
(8)事前事後学習の内容	毎週eALPS上で確認テストを実施する。問題を問いて理解できているか確認し、解けなかった箇所は復習すること。					
(9)履修上の注意	・「経済数学」「統計学I」「マクロ経済学I」の履修を前提とする。特に「マクロ経済学I」で学習した「対数を用いた計算方法」に関しては、十分に理解しておくこと。 ・コンピュータを使った簡単なデータ分析を宿題として課すことを考えている。Microsoft Excel等の表計算ソフトを使える環境を整えて、簡単な計算やグラフ描画のやり方を理解しておくこと。 ・授業に出席して手を動かして講義内容を理解することが重要である。					
(10)質問,相談への対応	授業中の質問を歓迎する。 また、この授業では、チューター・セッションの時間を設けている。これは、本授業を履修した学生					

(10)質問,相談への対応	もしくは大学院生によるチューターが、受講者の質問等に答える制度である。昼休みの時間に実施する予定である。受講者は、チューター・セッションを積極的に利用してほしい。 個別の質問がある場合は、メール(shuheiaoki@shinshu-u.ac.jp)で日時(火曜2限のオフィス・アワー等の時間)を相談の上、研究室(経法学部研究棟606室)面談することも可能である。さらに、メールでの質問も受け付ける。
【教科書】	・特に指定しない。講義資料を配布し、それに沿って講義を進める。
【参考書】	以下が参考書だが、単位取得のためには購入する必要はない。 ・齊藤誠、岩本康志、太田聡一、柴田章久『マクロ経済学 (New Liberal Arts Selection)』有斐閣、2010年4月。 ・チャールズ・I.ジョーンズ『経済成長理論入門 新古典派から内生的成長理論へ』日本経済新聞社、1999年9月。